第二十三章　自由闊達

文字は人類最大の発明。どんなに高度な文明であっても文字がなければ滅びてしまう。優れた医療技術を持っていたインカは滅んだし、文字を手にすることができなかったナスカは巨大な地上絵を残して消え去った。

今日は珍しく例の不思議なテレビに教養番組が流れている。

「あんな大きな文字じゃ、読むのに苦労するなあ」

ナスカの地上絵を見ながら田中がつぶやく。

「あれは文字じゃなく宇宙人が描いた絵なのじゃ」

「地球までやってくる宇宙人は高度な文明を持っているはず。砂漠にあんな大きな絵を描くなんてあり得ませんよ」

「じゃが、不思議じゃのう」

「文字を発明する方が不思議です。今でこそ日常茶飯事に文字を使っていますが、漢字やひらがな、カタカナ……それにアルファベットや数字、ギリシャ文字……様々な文字があります。言語も様々です」

文字があるからこそ文明が発達した。過去と現在を結び未来に繋ぐ文字。なぜか政府はこの

文字をないがしろにする。

「なぜ議事録を残さないのですか」

新型コロナウイルス感染症対策の専門家会議で討論された記録が残っていないという前代未聞の事実が発覚した。山本が議事録の開示請求をしたことで明らかになった。

政府は山本を記者クラブから排除しようとした。ところがほかのマスコミの記者が山本を記者クラブの代表に祭り上げた。仮に山本を排除しても記者は所属を超えて質問する作戦を立てた。政府はこれまでと異なる記者たちの攻勢に戸惑う。「ここだけの話」でマスコミ各社にそれなりのアメを与えるというこれまでのやり方を変更せざるを得なくなった。

山本の質問にまともに答えなかったりすると、すぐさまほかの記者が執拗に同じ質問を浴びせる。記者たちは一丸となって国民に真実を知らせると言う使命を全うしようとする。

＊

「自由闊達に議論していただくため、あえて議事録は作成していません」

なんとか総理が答える。

「専門家会議のメンバーに尋ねたところ、『自由闊達に』とも『議事録は作りません』とも告げられたことはないとのことでした。逆に『自分の発言に責任を持つ』と言っています」

田中が総理の答弁にあきれながら漏らす。

「明るい話題について広く様々な意見を聞くときに使うのが『自由闊達』じゃないのかなあ」

「確かにそうじゃのう。新型コロナウイルス感染症対応策を考える場面でしっかりと緊張感を持って専門的知識を総動員してあらゆる選択肢に対して誰もが納得可能な対策を全知全能の集中力を持って全責任を背負う気概で意見を述べるべきじゃ。それほどの気概で述べた意見が議事録に記載されることなく国民に伝えられないのは大問題じゃ。自分の意見が誤っていても恥ずべきではなく、むしろ批判や意見を聞かない方が問題で自己研鑽の邪魔になるのじゃ」

大家の口調が総理に似てくる。

「なるほど」

＊

ようやく議事録を作成することになった。ところで専門家会議のメンバーは自分の発言やほかのメンバーの発言を個人的に録音していた。あとで自分の意見や考え方を検証するためのもので他のメンバーと内容を共有していた。彼らはその録音内容を秘密にする考えはなく、一方公開を前提ともしていなかったので記者が求めると録音されたメモリーを渡す。新聞社や週刊誌の出版社が得意とする文字起こしで文書化されネット上で公開された。

言うまでもなく政府への批判が起こる。

「専門家会議が各都道府県をまたぐ移動はすべきでないと間接的にゴーツートラベルやゴーツー・イートなどのキャンペーンを批判したが政府は無視して実行した。結果は最悪だった。感染が急拡大したのにも関わらず検証されることなく反省もしっかり行われず、真摯に向き合う

こともなく世論に背を向けた。ある意味たいした対応じゃったな」

さすがにそのときの失敗が身にしみたのか、予算措置されてもゴーツー・トラベルなどが実行されることはなく巨額な未執行予算が残った。しかもその未執行分をほかの有効な政策に使われず放置した。

「自治体がワクチン不足にあえいでいるのに全体としては順調だと言ってますけど、どれだけ不足していて今後どのように補うのか、数字で示しませんね」

山本が苦笑しながら専門家会議の様子を映像を流す。専門家の一人がうなだれる。

「我々は戸惑っています。踏み込んで意見すると『いつから政治家になった？　判断するのは政治家の仕事だ』とか『結果責任を負えるのか』と恫喝されます」

「ひどい！」

田中が叫ぶと大家が続く。

「防衛問題になると『あらゆる手段の選択肢を排除することなく速やかに実効性ある対策を構築する。場合によっては敵地攻撃も辞さない』と意気込むが、三回目のワクチン接種や保健所機能強化や子ども未来給付金などの問題に対しては『はじめから規模や期限有りきではなく柔軟に対応する』となる。確かにミサイルを発射する国もあるが、新型コロナウイルスの攻撃は熾烈さを通り越して国民の身体を占領しておる。なのに防衛網はボロボロで敵地攻撃どころではない。国産ワクチンを開発して先制攻撃すると威勢のいい発言はない。いったいどうなって

おるのじゃ」

ここで山本が口を挟む。

「防衛問題の専門家会議でも議事録は残していないの。でも『専門家の意見によると』と内容を伏せて錦の御旗のように使いまくる。結局自分たちが自由闊達に動きたいから議事録を作らない」

「いつでも言い訳できるように、つまり責任回避できるように、逃げ道を作っておくためだ」

「なるほど」

田中の見解に大家が後ろ向きに同調する。